

国際女性デー — ミモザに込められた希望、 未来は私たちが創る

リポアル堀井なみの

今年も各地でイベントを企画する方々があり、国際女性デーに出会う人びとが
いると思うと、うれしくなります。私の出会いは、約10年前、ノルウェー在住時
に友人の誘いで参加した「女性デーランチ会」です。約200名の女性が集まったエ
ネルギーッシュな会に励まされました。国際女性デーを象徴する花はミモザです。
帰国後、2018年3月に「政治分野における男女共同参画推進法」成立前の院内集
会に参加した際、ミモザ色を身につけた国会議員や地方議員を務められた方々が
中心となり、法案成立に向けてご尽力されている姿を目の当たりにしました。そ
れ以来ミモザの花を見るたびに、多くの先人たちが歩んできた道を思います。

日本で女性学、ノルウェーで北欧のジェンダー平等と草の根活動の大切さを学
びました。帰国後、言葉にできないモヤモヤを抱えていた頃に、フランスで女性
の権利獲得の歴史をコメディで描く演劇と出会い、その作者と日本の100年の女
性史を題材にした舞台『ミモザウエイズ』を制作しました。タイトルには、ミモ
ザの花と「一人ひとりのそれぞれの人生」という意味が込められています。70名
の女性へのインタビューと専門家の監修を基礎にした制作を通じて、私のモヤモ
ヤは可視化されました。どうしてもならない現実に圧倒されることもありますが、
それでも自分にできることを進めていこうと、朗読や講演、上映会を全国で
展開しています。国外においても、2024年、国連女性差別撤廃委員会の日本審議
が行われた夜に、国際・開発研究大学院の共催、国際女性の地位協会及び日本女
性差別撤廃条約 NGO ネットワーク後援のもと、ジュネーブで上映会を開催しま
した。幅広い年齢層の国際的な参加者が集まり、委員会の秋月弘子委員やシユル
ツ前委員からコメントを頂戴する、意義深い会となりました。

4月10日は「女性参政権記念日」、7月25日は条約が国内で効力を発生した「女
性の権利デー」です。これら記念日は行動を起こす機会を与えてくれます。ジェ
ンダー平等を実現する未来へ向けて、ともに歩んでいきましょう。



@picturesbytok

PROFILE

りぼあるほりいなみの：日仏女性の人権架け橋ミモザ実行委員会代表。国
際女性の地位協会理事。2024年 W7 イタリア・2023年 W7 日本アドバ
イザー。共訳『クロコダイルーワニみたいに潜む日常のハラスメントと性
差別、そしてその対処法』（かもがわ出版、2022）。『ミモザウエイズ』企画・
製作・翻訳者。同作は赤松良子ジェンダー平等基金に採択され、NVEC
フォーラムをマイルストーンに約4年をかけて制作された演劇。